

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	義久 靖宏	実務経験とその関連資格	看護師と臨床工学技士のライセンス保有 准看護師時代も含め透析室で看護師経験15年勤務 臨床工学技士として、透析室・手術室で10年勤務			
《授業科目における学習内容》						
コミュニケーションの技術やマナーを知り、医療職としての接し方を学ぶ。バイタルサインの技術を理解し、患者に必要な観察の方法を学ぶ。基本的な感染予防対策、針刺し事故対策を理解し、安全安楽を意識した行動が考える。医療安全の意義を知り、医療者の一員としてリスク感性を高める。チーム医療としての臨床工学技士の立場を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験： 70％ 2. 出席点： 20％ 3. 平常点： 10％						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新体系 看護学全書基礎看護学②基礎看護技術 I メヂカルフレンド社						
《授業外における学習方法》						
講義・演習後の復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
授業はオムニバス形式で行います。看護の業務や役割を学ぶことで、同じ医療者の一員として多職種連携の必要性を考えて欲しいと思います。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の仕事とはどのようなものか、臨床工学技士との違いを理解できる	教科書	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	病院とはどんなところか。看護師の業務内容の説明。看護のイメージと実際			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの種類と測定方法を説明できる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン(バイタルサインとは、体温・脈拍・血圧・呼吸の測定法。意識状態の確認)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床で仕事をしていくために必要な最低限のマナーについて説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	看護師の仕事、臨床工学技士と看護との関係)、医療者としてのマナー			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	効果的なコミュニケーションの具体的な方法を説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	観察・コミュニケーションの目的・必要性、基本的態度、効果的なコミュニケーション			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	基本的な院内感染対策について説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。	
		各コマにおける授業予定	院内感染対策の基本(手洗い、手指消毒)、病院や診療所の取り組み、針刺し事故対策、感染経路別予防対策など			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	個人防護具としてのガウンテクニック、無菌手袋の装着を行うことができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	感染予防技術(演習:ガウンテクニック、無菌手袋装着、消毒法)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療安全についての考え方と、人の能力の限界について説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	医療安全の意義、人間の行動とヒューマンエラー、医療安全対策		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療事故防止のための様々な分析方法について説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	医療事故を予防するための考え方		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを理解し、安楽な体位の取り方について説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	体位と安楽、ボディメカニクス、動作の経済性		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	体位を変換することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	安楽な体位の保持、体位変換の方法		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護記録の意味と読み方を理解することが出来る	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	看護における記録の重要性と、臨床工学技士としての看護記録の活用について、法的な看護記録の重要性について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	透析穿刺技術について知ることが出来る。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	座学の後、実際に透析の穿刺針に触れ、扱いを学習する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における関わりについて説明することが出来る。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	終末期における人の身体的・心理的特徴、家族の心情について考えることが出来る。		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	心肺蘇生法について理解できる。	持ち込み資料	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	一次救命、二次救命について必要性、緊急性を理解できる。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの講義・演習の総復習を行い、臨床工学技士に必要な看護学の重要性について説明することができる。	教科書	講義後の復習をしておくこと。
		各コマにおける授業予定	まとめ		